

# 令和6年度第1回兵庫県スポーツ推進審議会 議事録

- 1 期日・場所 令和6年9月11日(水) 10:00~11:30  
兵庫県民会館「亀」  
〒650-0011 神戸市中央区下山手通4丁目16-3
- 2 出席者  
(委員13名) 長ヶ原委員 伊藤委員 平野委員 吉矢委員 恒木委員  
三上委員 北中委員 角南委員 久保田委員 榎並委員  
川原委員  
  
(行政関係者) 木村部長(県民生活部)  
小倉次長(県民生活部)  
丸山スポーツ推進調整官(県民生活部スポーツ振興課)  
沖本副課長(福祉部ユニバーサル推進課)  
森鼻副課長(県民生活部スポーツ振興課)  
杉本事務局長(公益財団法人兵庫県スポーツ協会)  
新谷マラソン担当官(県民生活部スポーツ振興課)  
宮本競技・生涯スポーツ班長(県民生活部スポーツ振興課)  
榎木主任スポーツ振興専門員(県民生活部スポーツ振興課)  
蓬野主任スポーツ振興専門員(県民生活部スポーツ振興課)
- 3 開会あいさつ 木村部長
- 4 会長あいさつ 長ヶ原会長
- 5 署名委員の指名 三上委員、榎並委員に決定
- 6 前回議事録の報告 スポーツ振興課副課長より説明し、承認を受けた。
- 7 審議事項  
HYOGO スポーツエコシステムについて  
スポーツ振興課スポーツ推進調整官(以下、スポーツ推進調整官)が進捗状況(事業実績等)を説明し、その後委員相互および行政関係者でエコシステムの具現化に向けて意見交換を行った。
- 8 報告事項  
(1) 第2期兵庫県スポーツ推進計画令和6年度実施計画に基づく主要事業について  
スポーツ推進調整官から令和6年度の総括指標・関連指標の目標値の説明後、その指標に関連する事業についてスポーツ推進調整官およびユニバーサル推進課副課長が説明を行った。  
(2) 令和6年度スポーツ振興団体に交付する補助金について  
スポーツ振興課副課長から説明を行った。
- 9 閉会あいさつ 丸山スポーツ推進調整官
- 10 閉会

## ■ 委員の主な意見及び行政関係者の説明

### 審議事項 <HYOGO スポーツエコシステムについて>

#### 人材バンク

##### 【伊藤委員】

- 人材（アスリート）バンクを活用して「支援する」とあるが、バンクに人材確保をするためには、アスリートを育成することも重要である。それに対する施策は行っているか。

##### 【行政関係者（森鼻副課長）】

- 競技スポーツ振興事業として、兵庫県スポーツ協会が中心となりアスリートの強化・育成を行っている。

#### 空間開放

##### 【伊藤委員】

- 空間解放について、「HYOGO スポーツベース」の開設予定とあるが、県庁前での実証実験の他に候補はあるのか。

##### 【行政関係者（森鼻副課長）】

- 候補地として、10カ所程度をリストアップして、現在折衝を行っている。よい場所があれば教えていただければ、足を運びたい。

##### 【伊藤委員】

- 大学は様々なスポーツ施設を保有しており、また地域貢献に力を入れているので、タイミング等合えば役に立てると思う。

##### 【長ヶ原会長】

- 大学施設において事業が展開されれば、学生（大学生）が学べる場にもなりえることから、大学側にも開放の意義は大いにある。また空間の開放だけでなく、時間の開放も必要であり、夜間照明施設を充実させ、空間が空く夜間の開放もできるような実績も増やすとよい。

#### Well Being

##### 【平野委員】

- 「Well being」について女性のスポーツという観点は入っているが、さらに深めて周産期うつのお母さんや若いお母さんをも対象とすることや、子育てという内容も含めた「ファミリースポーツ」の観点があるとなお良い。またスポーツコンソーシアムを構築するにあたり運動はメンタルヘルスにも有用であるのでその内容も打ち出すとよい。

##### 【伊藤委員】

- 色々な方の運動実施を後押しすることで言うと、行動経済学ナッジ理論も有効なのでメンタルヘルスの心理学だけでなく色々な専門家にも協力いただくのがよい。また、「Well Being」の中に、手軽な運動が中年期のミッドライフクライシスの問題や孤立・孤独対策にもなるので、その観点をいれたい。

##### 【吉矢委員】

- ユニバーサルスポーツで、障害者の方や高齢の方、女性の方が安全に高いレベルでスポーツを行う際にはスポーツ医学の観点が入っている方がよい。県内には専門病院もあり、そこのドクターの意見を取り入れることもよいのではないかと。

##### 【長ヶ原会長】

- 以前のオリンピックからアスリートのメンタルケアが出てきて、今や中学・高校まで常識となっている。大学の先生の協力や学会などもあるので、そこの連携も考えられる。またファミリースポーツは、まだ子どもと女性が別々に行っている。親子体験等「家族」という観点は運動を行うモチベーションとなり得るので条件を整えていくことが重要である。

##### 【榎並委員】

- 女性スポーツの振興には、女性スポーツの会も一役を担っている。設立当初から参加しているが、様々な取組に加盟団体はとて協力的である。女性スポーツの振興はもとより現在、中学校部活動の地域移行の議論がなされているが、このような団体やエコシステムなどと連携しながら行うことができれば、指導者不足の問題などの解決の糸口も見いだせるのではと感じる。

【川原委員】

- 剣道を行っている者からすると、剣道のルーツはそもそも仕事からスタートしている。勝敗に対しても厳格で、感情を表に出すと反則負けになり、楽しむなどの観点が少ない。一方で「Well being」の観点からいうと、スポーツの楽しさを知って、運動をしてもらうことも重要なのではと感じている。

【久保田委員】

- 「HYOGO チョイスポ」は手軽にスポーツの楽しさを知っていただけるよい機会となる。県のかなんな主催事業と連携し県内各地で実施できるのではないかな。そこがベースとなり競技人口が増えるとよい取組みとなると思う。

【長ヶ原会長】

- いわゆるエリートスポーツイベントだけがメディアに取り上げられるのではなく、地域での生涯スポーツのイベントが取り上げられ、発信されるとよい。メディアの方でもご協力お願いしたい。

【恒木委員】

- スポーツ推進委員会が協力できる場所として、レクリエーションスポーツの普及があり、最近年齢に関係なく手軽にできるニュースポーツやパラスポーツの普及が進んでいる。ただ、用具が非常に高価なので、できれば行政にも協力いただきながら進めていけないだろうか。

【行政関係者（丸山調整官）】

- 生涯スポーツ関係は県でも力を入れていきたいと考えている。毎年行われている「県民ふれあい大会」ではたくさんの生涯スポーツを体験できる企画をしている。他にも生涯スポーツに関わる体験会などを県としてPRしていけるようにしたい。

【長ヶ原会長】

- 生涯スポーツ・レクリエーションスポーツで言うと、海外ではスポーツバイリンガルプログラムというものがあって2種目以上のスポーツ実施と指導者育成を推奨している。それがマスターズにつながっているが、シーズンスポーツの普及も含め、日本は遅れている。

【三上委員】

- パラスポーツの用具については、高価ということもあるが、会場の都合や正規の用具が使えない場合がある。その際はコピー機のマスターの芯でモルックを作成したり、お菓子の箱で用具を作成したりと手作りの用具で対応している。パラスポーツは障害の種類や程度によりルールや用具に工夫ができることが魅力の一つである。現在は、パラスポーツ体験会の開催依頼も多くなり、地域のスポーツ推進委員にも資格を取得いただき、活動をしている。

報告事項 <第2期兵庫県スポーツ推進計画令和6年度実施計画に基づく主要事業について>

【平野委員】

- 幼児の運動習慣づくりに向け取組をされているが、日本では幼保一元化が実現されていない。ぜひ、取組を進めるにあたり保育園・幼稚園の間を埋めるような観点もおさえてもらいたい。

【行政関係者（丸山調整官）】

- 保育園・幼稚園の指導者対象のアンケートを実施し、約500名の回答を回収している。現在、分析中で、また改めて結果を公表させていただく。

【三上委員】

- 障害者スポーツ等応援プロジェクトはとてもありがたい。この事業で購入された用具はどのように管理されるのか。

【行政関係者（沖本副課長）】

- 現在、購入を検討している案件については、今後情報交換をしながらご意見を伺いよりよい形になるよう取り組んでいく。

【署名委員】

三上善子

榎並由美